

(1)
大阪驛本屋
基礎井筒沈
下狀況。

大 阪 驛 本 屋 基 础 築 造 工 事

鐵道省大阪改良事務所 技師 酒見佐市

本地盤は極く軟弱にして砂利盤は地表下30米にある爲に昨年當大阪改良事務所に於て施行せる下淀川橋梁の橋脚に用ひたる注水式井筒基礎を建築物に應用せるものである。之は鐵筋「コンクリート」の井筒を作成し「バケツ」によつて内部の土砂を堀鑿し沈下に際しては荷重を用ひず「コンクリート」中に埋設せる鐵管により井筒外壁の下部より水を噴出して以て土と井筒の粘着力を減殺して井筒の自重により降下せしむる工法である。從來建築物の基礎として採用されたる事稀にして本工事に於ても、井筒の容積橋梁の基礎の如く大ならざるを以て、自重少なく沈下を懸念したるも、注水式を用ふる時には成績良好なるを認めた、その工事の大要を示せば次の通りである。

地盤 地表より7米迄土交り砂
5米より25米迄灰色粘土
25米より28米迄細砂
28米以下砂利

井筒

深さ 長さ29米及26米の井筒を6ロット
に分ち打ち繼ぎ地表下30米迄沈
下す。

外徑 3米10厘及2米60厘
内徑 2米50厘及2米00厘

構造 鐵筋「コンクリート」造

數量 井筒134基

工期 昭和十一年一月——昭和十一年十月

設計 鐵道省大阪改良事務所

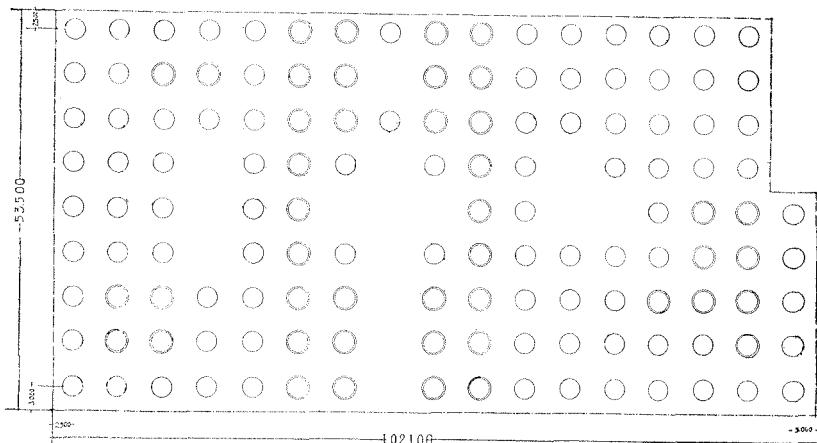
請負 株式會社大林組



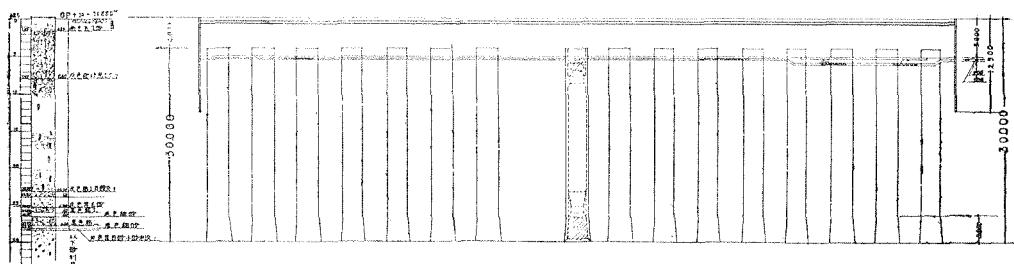
(2) 大阪驛本屋建築現場全景。

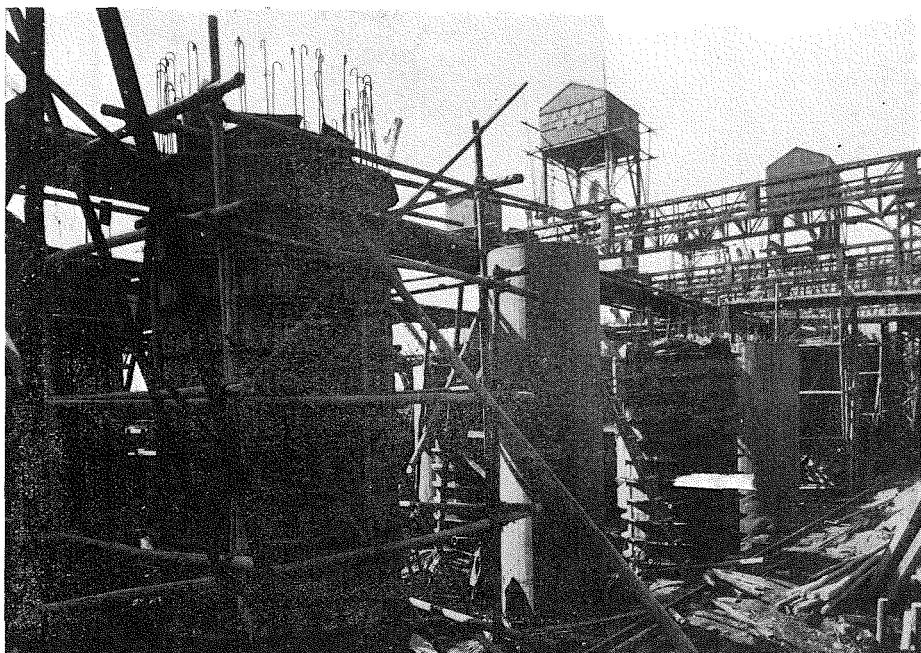
平面図

(3)
基礎工事平面
及断面圖。



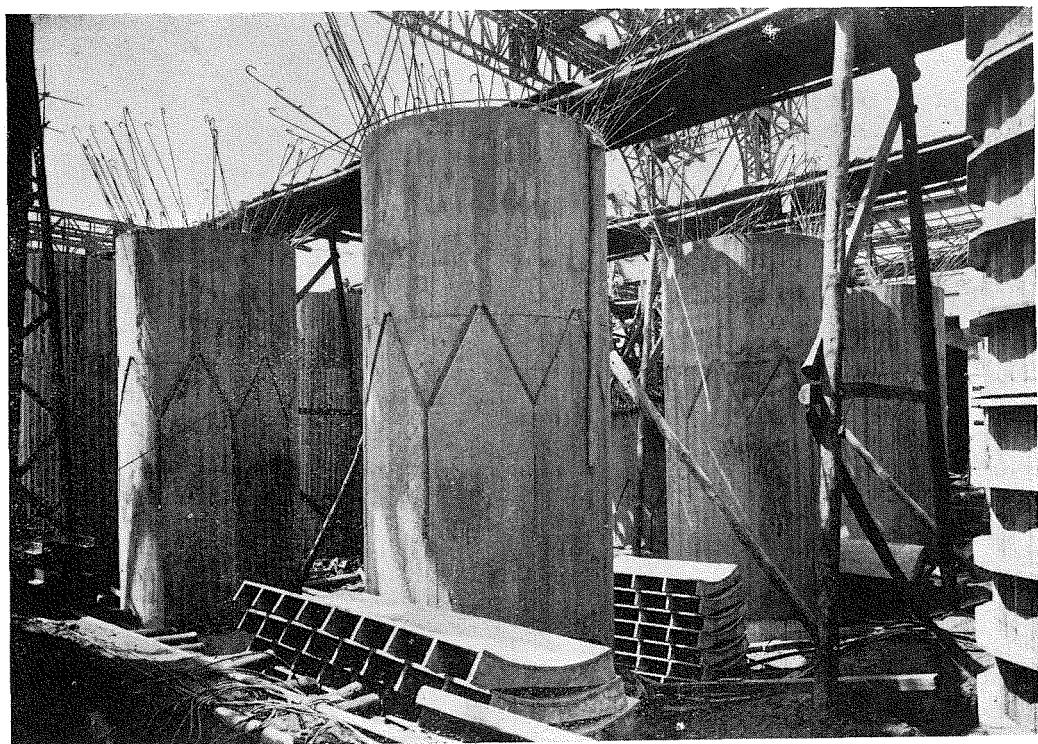
断面図

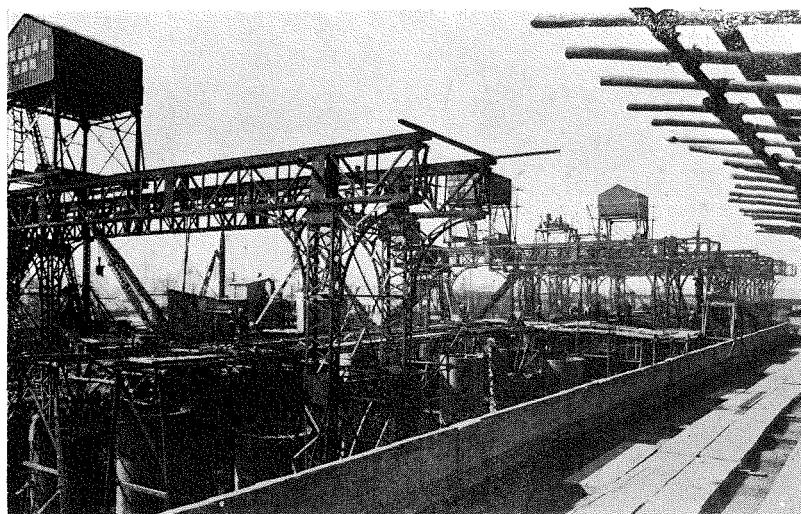
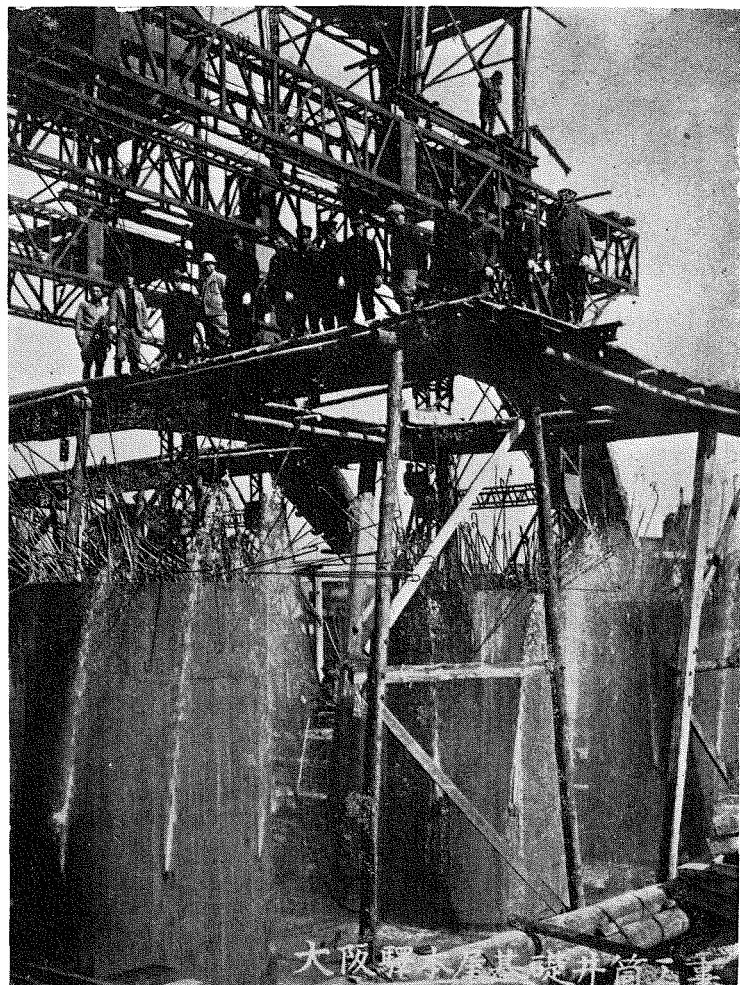


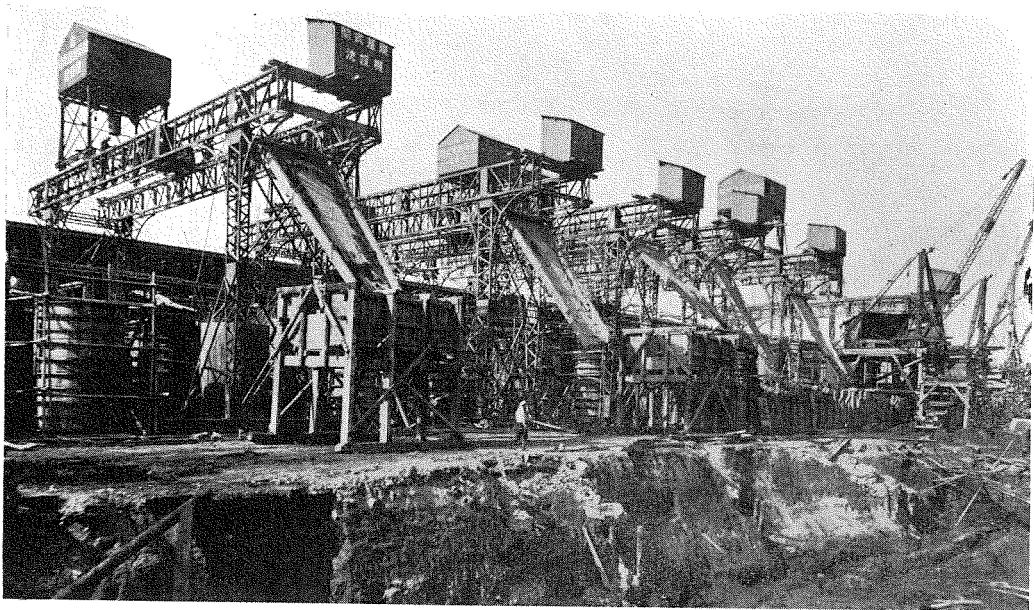


(4) 井筒型枠並
にコンクリ
ート施工。

(5) 間式基礎井筒 2段目と其噴孔。







(8) 井筒沈下中の工事場・場所と工期の關係
で寫真に見る如きトラベラー・クレーンを用ひ
コンクリート及掘鑿沈下を進めてゐる。

(9) 掘鑿土砂捲揚機。

